令和3年4月21日

**令和2年（1～12月）冷凍食品の生産・消費について（速報）**

一般社団法人　日本冷凍食品協会

4月21日、当協会は、令和2年冷凍食品の生産・消費について（速報）を公表しました。なお、令和元年の数値については、速報値を一部修正し、確定値にしています。

1. **国内生産**

**（１）総論**

令和2年（1～12月）のわが国の冷凍食品国内生産は、数量が1,551,213トン（対前年比（以下、同じ）97.7％）と前年を下回り、金額（工場出荷額）は7,028億円（100.7％）と前年をわずかに上回った。

表-１



**（２）業務用・家庭用別**

業務用は、数量が779,948トン（87.0％）、金額が3,279億円（85.9％）と大幅に減少し、数量は平成2年（1990年）以来30年ぶりに70万トン台となった。

一方、家庭用は、数量が771,265トン（111.4％）、金額が3,749億円（118.5％）と大幅に増加し、調査開始以来、いずれも最高値となった。

業務用と家庭用の比率は、数量ベースではそれぞれ50.3％、49.7％（前年56.4％、43.6％）、金額ベースでは46.7％、53.3％（前年54.7％、45.3％）と、いずれも家庭用の率が大幅に上昇し、数量ベースでは、ほぼ半々、金額ベースでは初めて家庭用が上回った。

表-２　数量



表-３　金額



**（３）品目別**

大分類の品目別生産量では、減少傾向が続いていた水産物（100.2％）がほぼ横ばいとなったものの、原料作物の生産減少等により農産物（94.1％）が減少したほか、国内生産の大半を占める調理食品（97.8％）が減少した。

小分類の品目で前年に対して大きく増加したのは、炒飯（16,214トン増、119.5％）、ギョウザ（7,874トン増、109.6％）、うどん（7,486トン増、103.9％）、スパゲッティ（5,329トン増、108.8%）などであった。

減少したのは、卵製品（13,726トン減、69.2％）、ピラフ類（11,753トン減、78.2％）、ハンバーグ（7,424トン減、89.4％）などであった（ただし、「うち～、その他の～」を除く）。

　　　小分類の品目別生産量における上位20品目を見ると、引き続き、1位うどん、2位コロッケ、3位炒飯と、上位3品目は前年と同順位であった。大きく順位を上げたのは、7位から5位となったスパゲッティ、17位から13位になったグラタンなどであった。

表-４



1. **輸入**

**（１）冷凍野菜**

　財務省貿易統計による令和2年(1～12月)のわが国の冷凍野菜輸入量は、1,032,756トン（94.8％）と

平成26年（2014年）以来6年ぶりの減少となった。輸入額は、1,867億円（92.9％）と2016年以来4年ぶりの減少となった。

　　輸入量が減少した主な品目としては、ポテト（31,632トン減、92.0％）、えだまめ（6,448トン減、91.7％）、コーン（3,841トン減、92.7％）などであった。

　 主な輸入先であるアメリカ（23,033トン減、93.1％)はポテトを中心に減少、中国（9,973トン減、97.9％）、タイ（3,424トン減、93.1％）なども減少した。

表-５　輸入量・金額推移



表-６　国別の輸入量推移



**（２）調理冷凍食品**

令和2年の調理冷凍食品輸入量は、256,404トン(95.3％)、金額は1,568億円(95.4％)となり、数量、金額ともに前年を下回った。

輸入量のうち、業務用は202,982トン（91.7％)、家庭用53,422トン(112.3％)となり、金額では業務用は1,197億円（93.8％）、家庭用は371億円（101.0％）と、業務用は量、金額とも大幅に減少し、家庭用では量が大幅に増加、金額がわずかに増加した。

国別では、主要な輸入先の中国（32,764トン減、76.1％）、タイ（10,283トン減、90.5％）が大幅に減少、ベトナム（3,050トン増、139.4％）は増加した。

なお、この調査は、当協会会員社のうち、輸入調理冷凍食品を取り扱っている39社を対象にしたものであり、わが国の調理冷凍食品輸入の全体の状況を示すものではない。

表-７　輸入量・金額の推移



表-８　数量



表-９　金額



表-１０　国別の輸入量推移



**３．国内消費**

当協会では、「冷凍食品国内生産量」「冷凍野菜輸入量」および「調理冷凍食品輸入量」の合計を冷凍食品の「消費量」としている。

令和2年のわが国の冷凍食品消費量は、上記の国内生産量 1,551,213トンに、冷凍野菜輸入量1,032,756トンと、調理冷凍食品輸入量256,404トンを加えた2,840,373トン（96.4％）であった。これを総人口（125,708千人）で割った国民1人当たりの年間消費量は、22.6キログラム（0.8キログラム減、96.7％）となり、いずれも減少した。また、金額ベースは1兆463億円（98.4％）とやや減少したが、4年連続1兆円を上回った。

なお、前述のように調理冷凍食品の輸入については、当協会会員だけを対象にした調査であり、会員以外の商社、流通業者等が輸入しているものを考慮すると、実際の「消費量」はこの284万トンを上回るものと考えられる。

表-１１　数量



表-１２ 金額



**≪別添資料≫**

１．冷凍食品の国内生産及び消費

２．品目別国内生産

３．品目別国内生産及び構成比率と1キログラム当たり金額

４．国内生産量上位20品目（平成27～令和2年推移）

５．日本の冷凍野菜品目別生産国別輸入

６．調理冷凍食品輸入

７．調理冷凍食品輸入（平成22～令和2年推移）

《問い合わせ先》

一般社団法人　日本冷凍食品協会

〒104-0045　東京都中央区築地3丁目17番9号興和日東ビル4階

担当　：　総務企画部企画調査課　横塚

TEL：03－3541－3003

FAX：03－3541－3012

E-mail： yokotsuka@reishokukyo.or.jp